

Japan River Restoration Network News Letter

発行: 日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082

東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階

Tel : 03-6032-7121

Fax: 03-6032-7456

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/japan/index.html>

No.1 (2006 年 12 月)

巻頭書記

2006 年 11 月に日本、中国及び韓国の 3 ヶ国合同による『Asian River Restoration Network (アジア河川・水辺再生ネットワーク; ARRN)』が発足しました。ARRN の日本の窓口機関である『日本河川・

水辺再生ネットワーク (JRRN)』の活動、情報をお届けする本誌の記念すべき第 1 号の本編でその設立の内容をご紹介します。

活動報告

ARRN 発足、そのあらかし

JRRN 事務局

ARRN の運営会議

2006 年 11 月 8 日に日本で、日中韓における ARRN の運営会議を開催しました。運営会議では、事務局および事務局長、運営会議の議長の選出を行い、ロゴマーク、WEB サイトの運営、アクションプラン、河川再生ガイドラインに関する事項を協議しました。事務局長からは、2009 年の世界水フォーラムに ARRN として参加を行うことを念頭におき、3 カ年の活動を実施していくことを報告しました。



運営会議の様子

(2006 年 11 月 8 日 JRRN 事務局撮影)

ARRN 設立記念式典

2006年11月9日に日本でARRNの設立式典及び記念国際フォーラムを開催しました。ARRN加盟署名国である日本・中国・韓国と、近隣諸国のマレーシア、欧州のECRRを代表してフィンランドから河川再生事業に携わる関係者5カ国の河川関係者が集いました。また、水に関する国際ネットワークについての紹介として日本の代表者が講演を行い、ARRN以外のネットワーク概要についても情報共有を行いました。



ARRN 設立記念式典の様子

(2006年11月9日 JRRN 事務局撮影)

ARRN の加盟署名式

ARRN 設立記念式典では、今後アジア地域における情報交換を積極的に推進していくために、まずは日本、中国、韓国の3カ国がARRNに加盟して活動を行うことを確認し、加盟署名式を行いました。今

後、3カ国は協力をしてARRNの発展に取り組めます。



日中韓の加盟署名式後の様子

(2006年11月9日 JRRN 事務局撮影)

ARRN の目的

アジア河川・流域再生ネットワーク (Asian River Restoration Network ; ARRN) は、アジア諸国を中心とした多くの方々が参加し、情報提供・収集できる組織として設立されました。本ネットワークは、河川・流域再生に関するコミュニティーを拡張し、各地域に相応しい河川の再生技術の発展に寄与するものです。

JRRN の目的

JRRN は国際的に河川再生に関する知識、技術情報の交換を行うネットワークであるARRNの日本の窓口機関です。主にアジア地域の河川流域再生に関する技術、知識、経験等を組織・個人問わず、交換できる機会と場の提供を目的とした活動を行います。



組織概念図

活動内容

河川流域の環境再生をテーマとした国際フォーラムやワークショップの開催、現地視察の企画、技術トレーニングの企画等を行います。また、関連情報を Web サイトやニュースレター等に掲載し、自然環境や気象状況が類似した地域間の情報共有を推進いたします。さらに、国内ネットワークを通じた講師・専門家派遣の事務手続き等を支援します。

登録資格

JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。行政、民間団体、NPO、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備改善に携わるすべてのの方々のご参加を歓迎いたします。

会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

1. ニュースレターによる国内外の河川再生情報が配信されます。
2. 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。
3. 必要に応じた国内外の河川整備事例の情報収集の支援を受けられます。
4. JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。

事例紹介

韓国 河川再生プロジェクトとはじめ

Dr. C. W. Kim 韓国建設技術研究院

編集：日本河川・水辺再生ネットワーク事務局

韓国では、1990 年代初頭に都市河川再生事業が始まりました。最初の河川再生事業は、研究目的の試行的なものでした。公共機関による河川再生事業が始められたのは、1990 年代中頃からとなります。ソウル市南西部の小さな都市河川である良才川（Yangajecheon）で試行的に行われていた技術が施工されたプロジェクトの成功が実証され、慶安川（Gyeongancheon）のような実河川の再生事業が 1990 年代後半から始められました。その大半は中央政府の河川管理者によるものです。

現在、川の生態系の再生より川の水質改善や川岸の美的価値の強化に焦点をあてたものが多く、多数の小規模な再生事業が実施されています。清溪川再生事業は、2005 年末、ソウル特別市により完成しました。同年 10 月には韓国で清溪川(Cheonggyecheon)を復元の祝祭が開催されました。完成後、1 年経過した今でも世界中から人が集まるソウル市の憩いの場所となっています。

（水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム ～Asian River Restoration Network 設立式典～より引用）



現在の清溪川

（2006 年 5 月 20 日 JRRN 事務局撮影）

清溪川は、都市中心部の覆蓋された河川の水面を開放した世界初の事例として知られています。この事業を契機に韓国の河川事業への関心が近年高まってきた。

実は著者が知る範囲であるが他にも、覆蓋された河川の水面を開放した事例は韓国にもう一時例ある。日本でも有名な済州島の山地川がそれである。詳しい情報は済州市の HP を参照されたし。

（URL：<http://www.jejusi.go.kr/>）

（JRRN 事務局加筆）

冊子ビデオ等の紹介

WEB サイト公開ファイル

水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム
- アジアを中心とした水辺・流域再生等についての
国際的ネットワーク構築へ -

(財)リバーフロント整備センター

2005年1月に開催された日中韓英米蘭の河川専門家の集う国際フォーラムの講演録です。日本語と英語の2つの言語による記載があります。6ヶ国の河川事業の紹介及び総合討論が記載されています。

日韓 水辺環境の国際情報ネットワークに関する
ワークショップ講演録

(財)リバーフロント整備センター

2005年7月に開催された日本及び韓国の2ヶ国による河川情報交換を意図した国際ワークショップの講演録です。両国の河川事業の紹介及び総合討論が記載されています。

いずれのファイルも以下の URL にて公開中です。
是非、ご活用下さい。

URL: <http://www.a-rr.net/>
